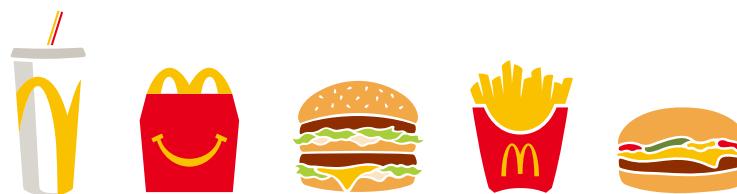




**McDonald's
Sustainability Report
2021**



Letter from CEO

日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長兼CEO

日色 保



日頃よりマクドナルドを支えてくださっているお客様、関係者の皆さんに、心から感謝申し上げます。2021年は前年に引き続き、お客様や従業員の安全と健康を最優先として新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組みながら、安心でおいしいお食事の提供に努めてまいりました。

2021年は、日本マクドナルドの創業50周年の節目でもありました。

変化する社会やお客様のご期待にお応えすることで絶えず進化してきたマクドナルドの歴史を再認識すると共に、これからもビジネスを通して社会に対する役割や責任を果たしていく所存でございます。

私たちの存在意義：Our Purpose「おいしさと笑顔を地域の皆さんに」は、ずっと変わらないマクドナルドの世界共通の“想い”を表現したものです。安全安心で高品質なお食事をこれからも提供し続けることはもちろん、コミュニティの一員として豊かな未来の創造や持続可能な社会に貢献していきたいと考えています。

Our Purposeを実現し続けるために、「何を行うべきか」を私たちの使命：Our Missionに、また、「どのように実現するか」を私たちの価値観：Our Valuesに定め、一人ひとりが日々実行に努めています。

日本全国約2,900店舗で働く約19万人のクルー・や社員と共に、私たちの強みを活かした活動や、マクドナルドらしいFUNにあふれた様々な取り組みをこれからも続けてまいります。

Our Purpose

私たちの存在意義

おいしさと笑顔を 地域の皆さんに

Our Mission

私たちの使命

おいしさと Feel-Goodなモーメントを、 いつでもどこでもすべての人に。

Our Values

私たちの価値観



Serve

お客様とビーブルを
第一に考えます



Inclusion

オープンドアの精神で
多様性を活かします



Integrity

常に正しいことを
します



Community

地域に
貢献します



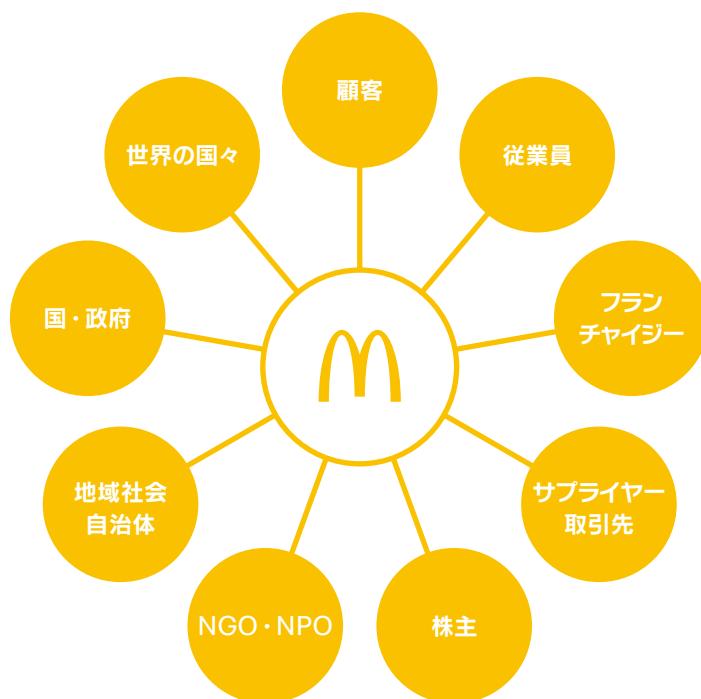
Family

力を合わせて
成長します

Letter from CEO

マクドナルドビジネスは様々なステークホルダーの皆さまとの関係の上に成り立っています。「環境・社会・ガバナンス(ESG)」において、私たちの役割と責任を果たし、最高のQSC&Vをお客様にご提供することで、より良い未来を築いていきながら、企業として長期的かつ安定的な成長を目指します。

実現のための取り組みとして、安心でおいしいお食事をお届けするために、調達から店舗まで徹底した品質保証体制を実施します。そして、マクドナルドを支えてくださる多くの皆さまとのパートナーシップを継続し、サプライヤーとの公平で倫理的な取引を行い、また、持続可能な食材・資源の調達にも尽力いたします。



豊かな地球環境のために、省エネやリサイクルで気候変動対策に向き合います。その一つとして、2021年に米マクドナルド社が発表した「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」のグローバルコミットメントに参加し、日本においてもサプライヤー、フランチャイジー、業界、政府、NGOなどと協力し、様々な活動に取り組んでまいります。

マクドナルドの活動は、創業者であるレイ・A・クロックの「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」というマクドナルドが受け継いできた精神に基づいています。コミュニティの一員として、ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援を含め、地域の皆さまにサポートを実施し、そこで暮らしているすべての人々のより良い毎日を支える地域の活性化に貢献いたします。

事業活動を支えるのは“人”であるという考え方から、マクドナルドの社員やクルーなど、働きがいをすべての人に提供するとともに、充実した福利厚生の提供や、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進も強化いたします。

Our Purposeである「おいしさと笑顔を地域の皆さまに」を実現するため、私たちは「安心でおいしいお食事を：Food Quality & Sourcing」「地球環境のために：Our Planet」「地域の仲間にサポートを：Community Connection」「働きがいをすべての人に：Jobs, Inclusion & Empowerment」の4つの領域に注力いたします。マクドナルドがお客様、関係者の皆さまに価値を提供することはもちろん、この領域における課題解決に向けて皆さまと共に取り組むことがSDGsの達成にも寄与できると考えています。

このサステナビリティレポート2021をご覧いただき、持続可能な社会に向けた私たちの考え方と取り組みをご理解いただけましたら幸いです。



より良い未来のために、 皆さんとともに

毎日多くのお客様をお迎えし、
お食事をご提供しているマクドナルドには、
世界が抱えるあらゆる課題に地域社会の一員として立ち向かう、
大きな責任があります。
すべては、おいしさと笑顔を地域の皆さんにお届けするため。
これからも私たちは、歩み続けます。

安心でおいしいお食事を Food Quality & Sourcing

安全安心で高品質な食事を提供し続けます

地球環境のために Our Planet

省エネやリサイクルで気候変動対策に向き合います

地域の仲間にサポートを Community Connection

地域に暮らしているすべての人の毎日を支援します

働きがいをすべての人に Jobs, Inclusion & Empowerment

あらゆる人がいきいきと働き成長できる機会を増やします



安心でおいしいお食事を

マクドナルドは、食の安全をすべてに優先させ、「安全・品質・衛生」に関する基準を設けるとともに、調達から提供までのそれに関わるすべての人が考えを理解し、倫理的で誠実な行動ができるシステムをこれからも維持・改良していきます。また、サプライヤーの皆さんに対し、共に成長するよいパートナーとして公平で倫理的な取引を行い、人・動物・環境・ビジネスにとって持続可能な食材の調達に尽力します。



生産地から店舗までの 品質保証体制

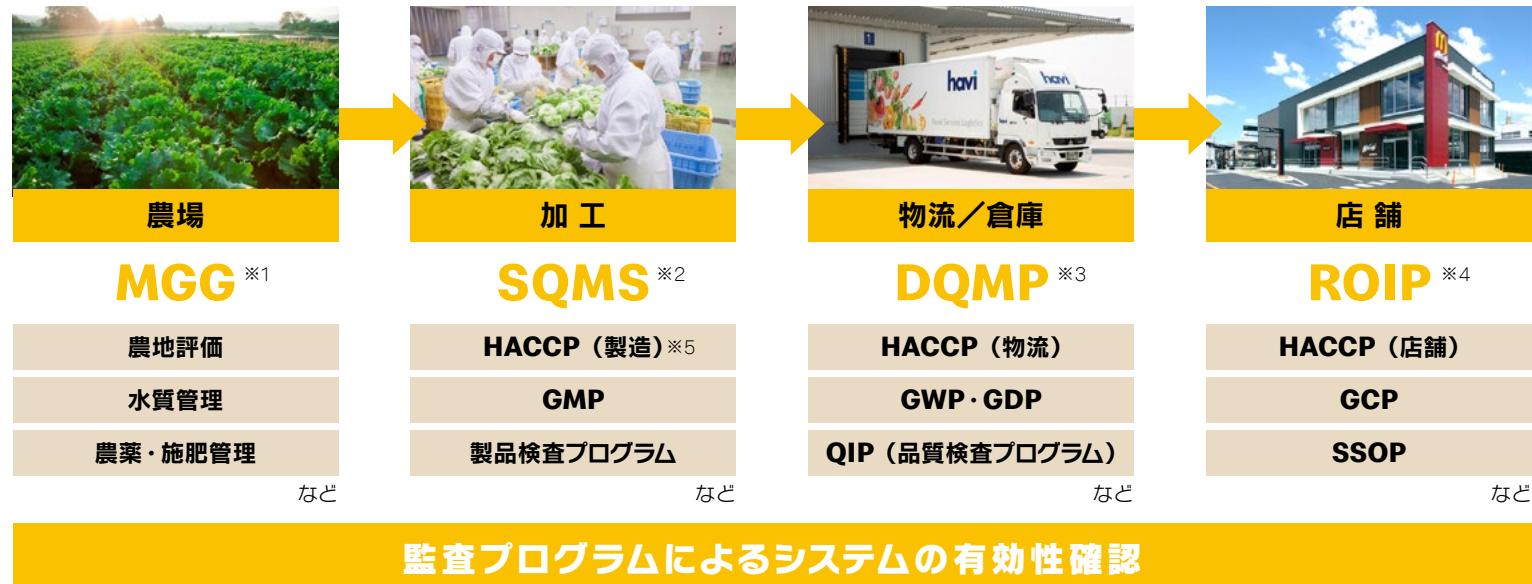
私たちがお客様へ提供する商品は、生産地から加工工場を経た食材が物流によって店舗に運ばれ、店舗で調理されたものです。この生産地、加工工場、物流、店舗に至る品質保証は、国際規格に基づいた独自の品質・食品安全マネジメントシステムによって管理されています。

 https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/food_safety/quality_management/



トレーサビリティ

原材料から最終製品までの全工程の生産履歴を追求できるシステムを持っています。これにより、万が一のトラブルに対して速やかな対応と原因の追求を可能にしています。



※1 MGG：マクドナルド農業生産工程管理 ※2 SQMS：サプライヤー品質マネジメントシステム ※3 DQMP：物流倉庫品質マネジメントプログラム ※4 ROIP：店舗オペレーション改善プロセス
※5 HACCP：危害要因分析重要管理点

食材の管理と サプライヤー基本原則



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/food_safety/food_management/

責任ある調達の考え方

「責任ある調達」を行うためには、まず高品質な食材を生産する姿勢、技術、管理、社会的責任性を持つサプライヤーの皆さまを非常に重要な存在と考え、「サプライヤー行動規範」の遵守を求めてています。これはサプライヤーがマクドナルドとパートナーシップを組むための基本原則で、関係法令、人権、労働環境、環境保全、事業経営の完全性が規定されています。また、行動規範の具体的な内容は「サプライヤー職場環境管理プログラム(SWA)」としてまとめられ、それに基づく実行と維持がサプライヤーに求められます。

サプライヤー行動規範

関連法令の遵守	人権	労働環境	環境保全	事業運営の完全性
---------	----	------	------	----------



サプライヤー職場環境管理 プログラム(SWA)

行動規範の着実な実行と維持のため、監査制度を導入したプログラム

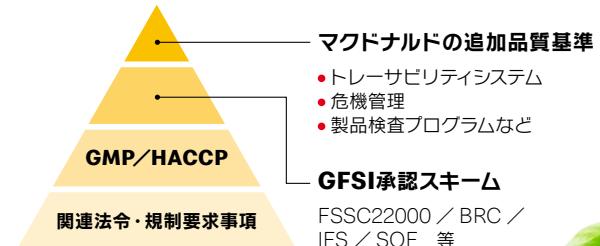
食材の管理の考え方

食材の安全性と品質の確保は私たちの最優先事項です。この実現には高品質な食材の安定した確保と、製造工程における管理が重要になります。マクドナルドではサプライヤーと一緒に、製造工程における厳しい管理体制や、より環境や動物に配慮した持続可能な調達を行っています。



食材の製造工程管理

食材の安全性と品質の確保は私たちの最優先事項です。そのために、官能評価、微生物検査、理化学検査など様々な検証・確認が実施されています。そして、製造工程の管理については、サプライヤー品質マネジメントシステム(SQMS)によって実施されています。これは、関連法令・規制要求事項をベースに、世界食品安全イニシアチブ(GFSI)に準拠した食品安全管理システムにマクドナルドの追加品質基準を加えたものです。



アニマルヘルス & ウエルフェア

アニマルヘルス & ウエルフェア(動物の健康と福祉)に配慮し、一部でその対応を実施しています。また、アニマルヘルス&ウエルフェアをどのように改善するかについて、透明性のある情報を提供するという私たちの責任を真剣に受け止めています。グローバル規模のサプライチェーンを活用し、マクドナルドの取り組みを共有する牛肉、鶏肉、豚肉などの生産者の支援を得て、アニマルヘルス & ウエルフェアの促進を行っています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/beef/>



GAP 農業生産工程管理

2010年よりレタス生産者とマクドナルドGAP認証取得の取り組みを開始しました。2019年からはGFSIにベンチマークされているGlobal G.A.P.*とマクドナルドGAPを合わせたGlobal G.A.P. Plusを導入しています。その中には、土壤や使用する水についての調査、適切な畑の管理、農薬の取り扱いなど、生産工程を管理するための100を超える要求項目があり、このきめ細やかさが、食の安全をより確実なものにしています。

* 適正農業規範に関する国際標準



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/factory/lettuce/>

持続可能性を示すアクション

持続可能な マクドナルドの調達

環境保全に努め、働く人の人権に配慮した原材料を使用することは、持続可能な社会の実現につながると考えています。そのためマクドナルドでは、サプライヤーの皆さまと協力し、サステナブルレベルを取得した原材料の調達を積極的に進めています。



持続可能な食材の調達
(MSC認証、レインフォレスト・アライアンス認証、RSPO認証)
<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/>

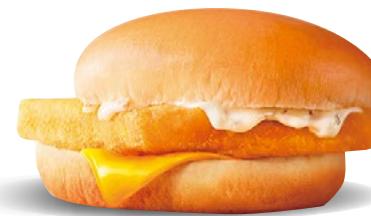


FSC認証
https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/fsc_paper/



FSC®認証(森林保全)

森林の自然環境を守るために、マクドナルドでは森林環境に配慮して作られた資材の導入を推進しており、2021年に店舗でお客様に提供するすべての紙製容器包装類において「FSC認証」済み資材への切り替えを完了しました。また、店舗で使用している「トレイマット」もFSC認証紙を使用しています。



詳しくは
FSC®ジャパンのHPをご覧ください
<https://jp.fsc.org/jp-jp>



詳しくは
MSCジャパンのHPをご覧ください
<https://www.msc.org/jp>



詳しくは
レインフォレスト・
アライアンスのHPをご覧ください
<https://www.rainforest-alliance.org/lang/ja>

MSC認証(水産資源保全)

人類共有の財産である水産資源を守るために、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた水産資源であることを示す「MSC認証」のアメリカ・ロシア産天然スケソウダラをフレッシュに使用しています。

レインフォレスト・アライアンス認証(持続可能な農業)

コーヒー栽培は気候変動による影響を受けやすく、気候変動によって栽培に適した栽培地域が移動する懸念があります。これに配慮し、お客様に提供するコーヒー豆は、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園で栽培されたものを100%使用しています。

RSPO認証(持続可能なパーム油の調達)

パーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油ですが、その生産は熱帯雨林や様々な生物の大規模な消失を招く恐れがあります。店舗で使用するフライオイルは、熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないことに配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用しています。

社外ステーク ホルダーとの連携

持続可能性の向上のために、マクドナルドは社外の有識者、NGOなどのステークホルダーとの協働が重要と考えています。

認証制度の普及については、国際的な環境保全団体であるWWFジャパンなどと協力し、トレイマットやSNSを通じて、それぞれの認証制度の背景にある環境・社会課題や意味を分かりやすく発信するキャンペーンを実施しました。



トレイマット(トレイに敷く紙)



サプライヤーとの パートナーシップ 考え方と取り組み

年間のべ約14億人のお客様をお迎えし、安全かつ最高のおいしさと品質の商品をご提供し続けるために、安定供給に関するあらゆるリスクへの対策や、環境課題や社会課題の解決に対する活動においても、サプライヤーの皆さまとの連携が不可欠です。

サプライヤーと目的を共有し、ともに実行することで強固な信頼関係を築き、様々な課題により大きなスケールでアプローチします。

 <https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/factory/>



サプライヤーとの連携

サプライヤーサミット

マクドナルドの成長プランをサプライヤーの皆さんに共有し、食品安全・品質、サステナビリティなどの目標を確認する場を設けています。

PLAN TO WIN

サプライヤーサミットで共有されたマクドナルドの成長と目標の実現に向けた活動プランをサプライヤーの皆さんとともに策定し、両者がともに成長することで、健全でより強固なサプライチェーンを築き上げていきます。



2021 Topics

品質管理点の強化

品質のためのさらなる取り組みをサプライヤーの皆さんと3ヵ年計画で行っています。1年目となる2021年には、食品の品質を維持するための重要なポイントの洗い出しと、その強化を行いました。

CODEX* HACCPによる 食品安全の再見直し

マクドナルドが定めている食品安全に対する様々な基準に対し、あらためて見直すことにより食品の安全の徹底に努めています。

* CODEX : 国際的な食品規格

ガバナンスと透明性の強化

マクドナルドが求める様々な基準を徹底し順守していただくために、サプライヤーに関連する利害関係者とより円滑なコミュニケーションをすることで、ガバナンスと透明性の強化を目指した取り組みを行っています。

オールサプライヤー ギャザリング

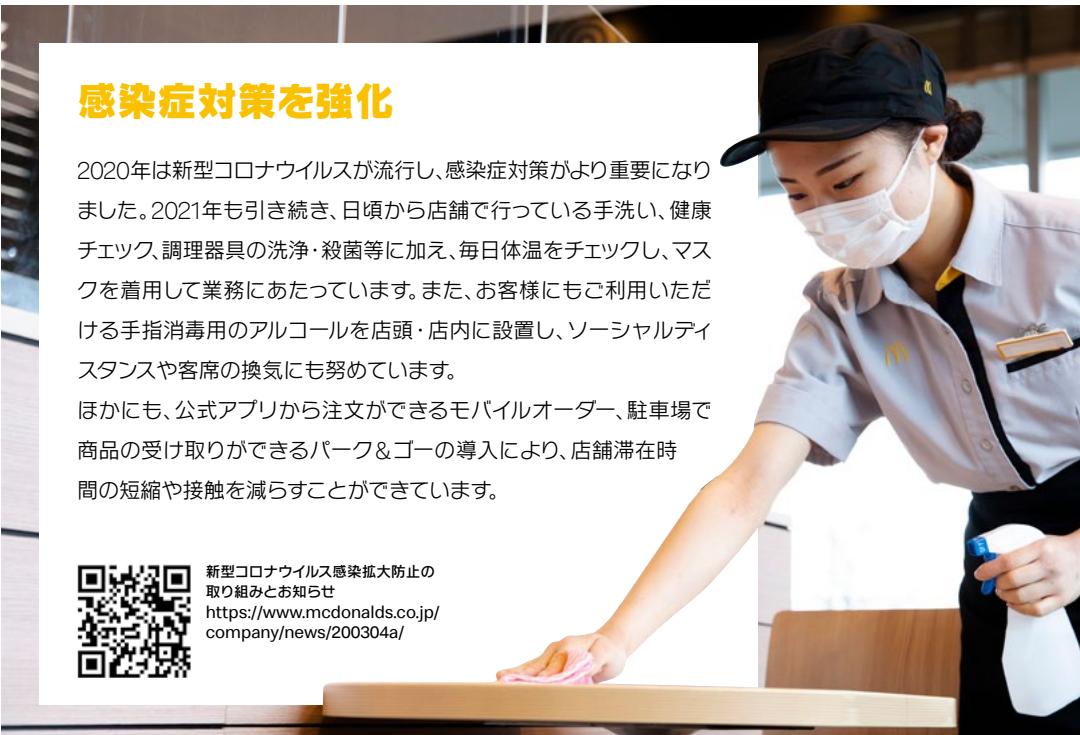
さまざまな調達の目標の達成に向けたスムーズな連携のため、月に一度、すべてのサプライヤーが集まる会議をオンラインで実施し、現状の課題の共有や今後注力する取り組みについて意識合わせを行っています。

店舗の衛生管理の取り組み

店舗における食材の管理・調理・販売にいたる衛生管理は私たちにとって果たすべき重要な責任です。私たちは、お客様に安心してマクドナルドをご利用いただけるよう、日頃から健康や身だしなみ、そして手洗いや客席の清潔さに気を配り、衛生管理を徹底しています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/sanitation/>



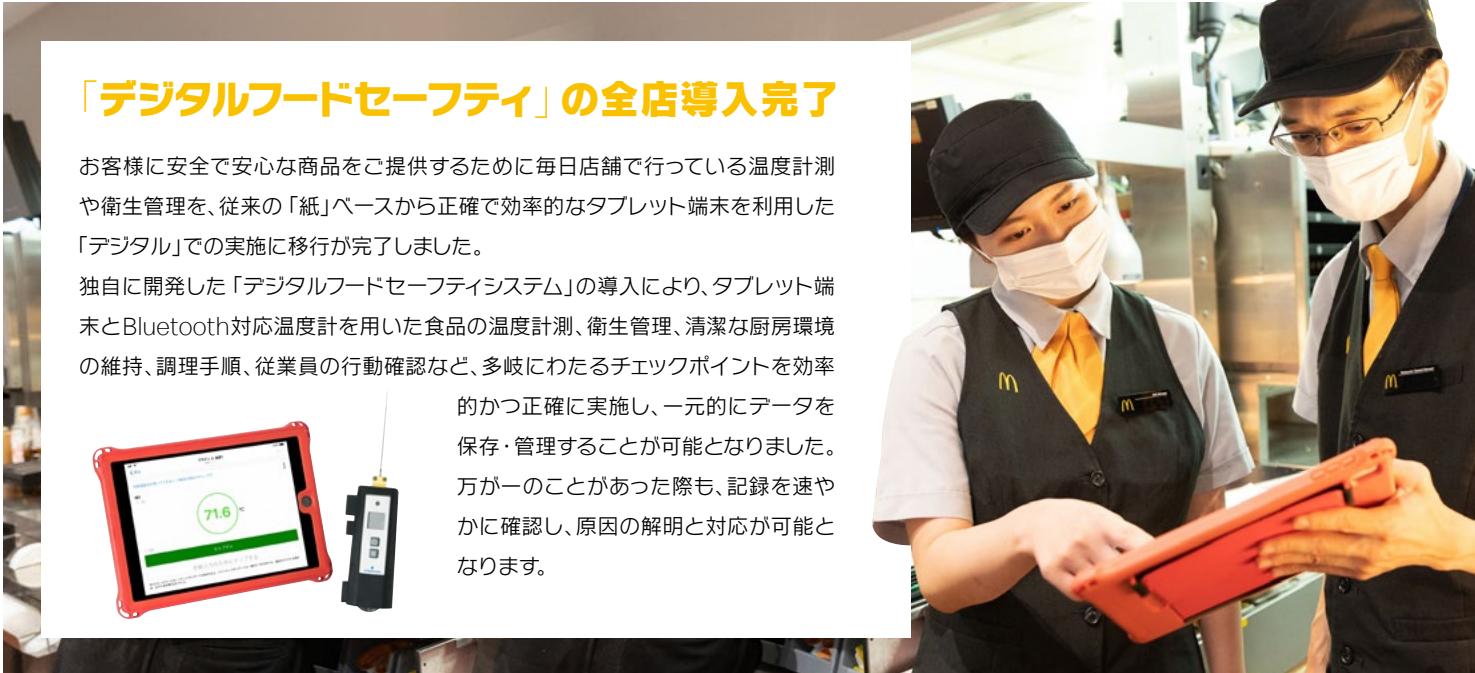
感染症対策を強化

2020年は新型コロナウイルスが流行し、感染症対策がより重要になりました。2021年も引き続き、日頃から店舗で行っている手洗い、健康チェック、調理器具の洗浄・殺菌等に加え、毎日体温をチェックし、マスクを着用して業務にあたっています。また、お客様にもご利用いただける手指消毒用のアルコールを店頭・店内に設置し、ソーシャルディスタンスや客席の換気にも努めています。

ほかにも、公式アプリから注文ができるモバイルオーダー、駐車場で商品の受け取りができるパーク&ゴーの導入により、店舗滞在時間の短縮や接触を減らすことができています。



新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みとお知らせ
<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/200304a/>



「デジタルフードセーフティ」の全店導入完了

お客様に安全で安心な商品をご提供するために毎日店舗で行っている温度計測や衛生管理を、従来の「紙」ベースから正確で効率的なタブレット端末を利用した「デジタル」での実施に移行が完了しました。

独自に開発した「デジタルフードセーフティシステム」の導入により、タブレット端末とBluetooth対応温度計を用いた食品の温度計測、衛生管理、清潔な厨房環境の維持、調理手順、従業員の行動確認など、多岐にわたるチェックポイントを効率

的かつ正確に実施し、一元的にデータを保存・管理することが可能となりました。万が一のことがあった際も、記録を速やかに確認し、原因の解明と対応が可能となります。

店舗の安全・安心を支える取り組み

原材料の温度管理、調理時の温度計測はもちろんのこと、水質チェックやフライオイルの劣化測定など様々な検査により、日々安全性の確認を行っています。また、従業員が食品安全について正しく理解し実行できるように、「食の安全をすべてに優先させる」という企業理念を徹底して浸透させ、働く一人ひとりが“こころ”で判断・行動できる教育を実施しています。

また、店舗の衛生管理が適切に実行されていることを確認するために、第三者の専門機関による定期的な監査も実施しています。



クルーの体温測定

すべてのクルーは勤務前に体温を測定しています。発熱がある場合は、出勤を見合わせます。



手洗いの徹底

クルーは指からひじまで、丁寧な手洗いを徹底しています。



調理器具の洗浄・消毒

調理器具は定期的に洗浄・消毒し、常に清潔な状態で使用しています。



アルコール消毒の徹底

接触の多いドアの取っ手やお食事スペースなどのアルコール消毒を徹底しています。

情報開示

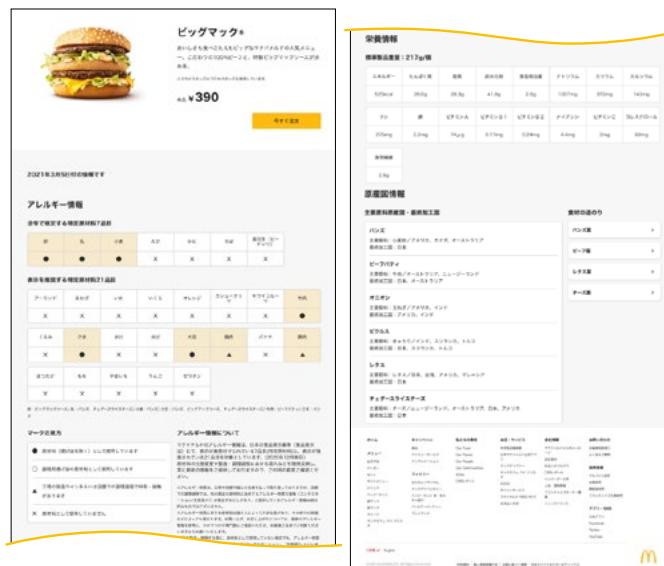
皆さまに安心しておいしく召し上がりいただくために、商品のアレルギー・栄養・原産国情報を公式ウェブサイトおよび公式アプリでお知らせしています。

商品のパッケージに付いているQRコードをご利用いただくと簡単にご確認いただけます。

アレルギー・栄養情報については、お客様のニーズにお応えできるよう英語版情報のご提供にも対応しています。

「栄養バランスチェック」「アレルギー検索」は、メニュー選びの際に役立てください。

 https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/allergy_Nutrition/



※ 画像はイメージです。お召し上がりの際は最新の情報をご確認ください。



アレルギー・栄養・原産国情報

アレルギー情報

日本の食品表示基準（食品表示法）にて表示が義務付けられている特定原材料7品目と表示が推奨されている21品目を対象としてお知らせしています（2021年12月現在）。原材料の仕様変更や製造・調理過程における混入などを随時反映し、常に最新の情報をご提供しています。

栄養情報

標準的な製品仕様と調理から食品表示基準（食品表示法）に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分表2015年版（七訂）」（文部科学省）を引用し作成しています。

原産国情報

主要原料の原産国や最終加工国の情報をお知らせしています。『主要原料原産国』は、「外食における原産地表示に関するガイドライン」（農林水産省）に準拠し、作成しています。

栄養バランスチェック

1日に必要な栄養のうち、マクドナルドの商品がどれだけ補えるか（充足率）をチェックすることができます。管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明もあり、健康的な毎日にお役立ていただける食育コンテンツです。

 https://www.mcdonalds.co.jp/products/nutrition_balance_check/



選択した商品
ビッグマック・マックフライポテト(M) /
30~49歳 女性/身体活動レベル 普通

アレルギー検索

公開しているアレルギー情報をもとに、28品目に該当するアレルギー物質が原材料（食材）として使用しているかどうか調べることができます。安心してお召し上がりいただけます。メニューをお選びいただいた際にお役立てください。

 https://www.mcdonalds.co.jp/products/allergy_check/



地球環境のために

私たちの環境に対する基本理念は“地球のことを考えて行動する”です。世界的な課題である気候変動や環境汚染について、社会の一員として積極的に取り組むことで環境保全に寄与するとともに、事業活動における環境負荷の削減についても常に検討し、行動を約束します。



2021 Topics

「ネット・ゼロ・エミッション」達成へのコミットメント

米マクドナルド社より発表された「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」について、日本においてもグローバルコミットメントに参加し、地球環境を守るための取り組みを引き続き行ってまいります。



プラスチック製おもちゃの2R（リデュース・リサイクル）強化

日本では2018年より各店舗で、遊ばなくなったハッピーセット®のおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルするプロジェクトを行っており、好評のため2021年からは通年で実施しています。

また2018年からは知育・德育を鑑みて図鑑や絵本を導入しており、プラスチックの削減にもつながっています。

リデュースの取り組みとして米マクドナルド社が発表した「ハッピーセットのおもちゃにおけるプラスチックの削減」に参加し、化石資源由来の原料を新規に使用したプラスチックを2025年末までに段階的に削減。サステナブルな素材を使用したおもちゃに移行します。

<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2021/0922b/>



お客様提供用紙製パッケージをFSC®製品へ100%切り替え達成

持続可能な環境の実現のため、マクドナルドでは原材料調達段階での負担軽減にも注力し、環境認証を取得した原材料の調達を推進しています。2021年にはお客様に提供するすべての紙製容器包装類およびトレイマットが、FSC証取得の製品に切り替わりました。

https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/fsc_paper/



プラスチック資源循環促進法に関連した取り組み

2025年末までに、お客様に提供するすべてのパッケージを、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更することを目指しています。

プラスチック製のストローとカトラリーについては2022年2月より、横浜エリア30店舗で紙製ストロー・木製カトラリーを導入しています。この取り組みはプラスチック資源循環促進法に合致した活動となります。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/paper_cup/



廃棄物対策

事業活動による環境への影響を減らすため、マクドナルドでは自らの廃棄物の内容を把握し、廃棄物の発生抑制や再利用、再生利用の対策を講じています。また、システムの改善や容器包装類における素材検討などを行うことで、環境問題の解決に向けたさらなる貢献に努めています。



総評

2021年は売り上げの増加(対前年比+10.7%)により廃棄物量は全体で増加(対前年比+10.0%)となりましたが、売上100万円あたりで見ると、食品廃棄物量は82.1kgとなり、前年の82.3kgより微減になりました。また、店舗での取り組みなどにより食品リサイクル率は向上し、60.2%に向しました。

プラスチック廃棄物量が前年を上回っていますが、2022年には全国導入を見据え、横浜エリア30店舗における紙製ストロー・木製カトラリーの導入を2月から実施し、ワンウェイプラスチックを削減する計画をしています。



2021年 廃棄物発生状況

※ 2021年12月末現在

全店の 食品・容器包装廃棄物量

全体
158.2 千t/年
対前年比+10.0%

食品
52.3 千t/年
対前年比+10.1%

※ 食品リサイクル定期報告に基づく
発生抑制を含む

紙類
40.1 千t/年
対前年比+8.0%

プラスチック類
6.5 千t/年
対前年比+14.1%

梱包材など
59.3 千t/年
対前年比+10.8%

売上100万円あたりの 食品・容器包装廃棄物量

全体
248.2 kg/百万円
対前年比▲0.3%

食品
82.1 kg/百万円
対前年比▲0.3%

※ 食品リサイクル法に基づく
ファーストフード店の発生抑制目標値
=83.3kg/百万円

紙類
62.9 kg/百万円
対前年比▲2.1%

プラスチック類
10.2 kg/百万円
対前年比+3.4%

梱包材など
93.0 kg/百万円
対前年比+0.4%

エネルギー対策

地球温暖化や気候変動については、皆が自分のこととして取り組み、解決を目指す必要があります。マクドナルドでは事業活動におけるエネルギー使用量の削減を優先課題としており、環境負荷の最適化に努めるため、店舗でのエネルギー管理や省エネ機器の導入など、エネルギー使用削減の取り組みを継続的に行ってています。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/power_efficiency/

総評

2021年のエネルギー使用量は増加（対前年比+2.0%）しましたが、省エネや高効率設備の導入等により前年比+10.7%の売上高の伸び率に比して低く抑えられています。

お客様千人あたりのエネルギー使用量は電気で4.0%減、ガスで0.4%減と前年を下回っています。

CO₂排出量は前年を上回りましたが、さらなる省エネや再生可能エネルギーの導入等を通して削減に努めています。

物流での取り組み

資材を運搬する際に使用するエネルギーを削減する取り組みとして、サプライチェーンにおける配送業務等の平準化・効率化、輸送の共同化、資材輸送のモーダル輸送化などを実施しています。

店舗での取り組み

従業員が店舗の機器の点検や清掃を決められたスケジュールに従って実施。メンテナンスを誰もができるようにカレンダー化された「ブランドメンテナンスシステム」を導入することで、機械効率を維持し無駄なエネルギーを削減しています。また現在、節水トイレや自動水栓の導入を推進するなど、水の使用量削減にも努めています。

2021年 エネルギー使用状況&CO₂排出状況

※ 2021年12月末現在

全店の種別エネルギー使用状況

電気



63,381 万kWh/年

対前年比+1.3%

ガス（都市ガス換算）

3,369 万m³/年

対前年比+5.3%

水道

484.0 万t/年

対前年比+11.8%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

電気



450.4 kWh/千人

対前年比▲4.0%

ガス（都市ガス換算）

23.9 m³/千人

対前年比▲0.4%

水道

3.4 t/千人

対前年比+6.3%

全体のエネルギー使用状況 & CO₂排出量

原油換算値

203,556 キロリットル/年

対前年比+2.0%

原単位原油換算値

0.2459 キロリットル/千レジカウント

対前年比▲3.3%

CO₂排出量

362,470 t-CO₂/年

対前年比+3.1%

121.5 t-CO₂/店舗

対前年比+2.2%

※ 原単位分母：千レジカウント



環境データ推移

環境にかかる過去5年間の推移を6つのグラフで示しています。また、オーダーメイド方式によるメイド・フォー・ユーの導入を開始してからの完成品商品の廃棄量の推移を表しています。

- エネルギー使用量とCO₂排出量
(全店・店舗平均・1000レジカウント原単位)
- 全店廃棄物排出量
- 売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率
- 全食品口数量 & 売上100万円あたりの食品口数量
- 売上100万円あたりの商品廃棄量

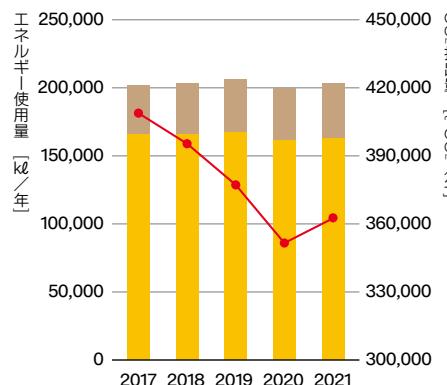
※ 2021年12月末現在



エネルギー使用量 & CO₂排出量

全店

電気 ガス CO₂



エネルギー使用量 & CO₂排出量

店舗平均

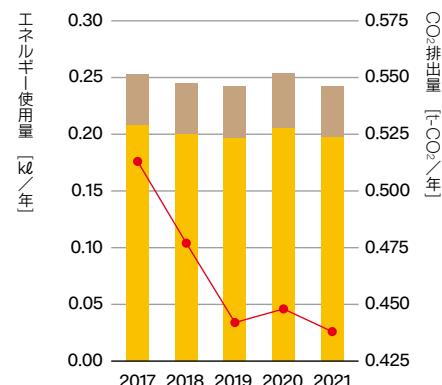
電気 ガス CO₂



エネルギー使用量 & CO₂排出量

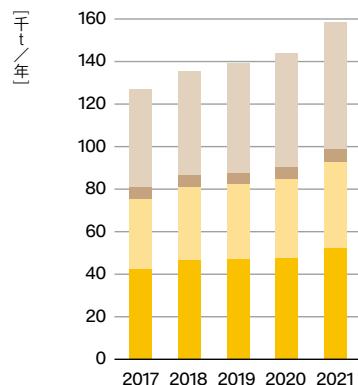
1000レジカウント原単位

電気 ガス CO₂



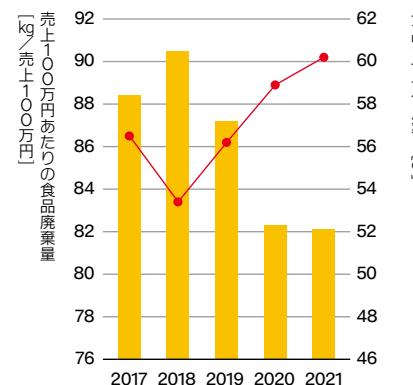
全店廃棄物排出量

食品類 紙類 プラ類 梱包材・他



売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率

売上100万円あたりの食品廃棄量 食品リサイクル率



※ 食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値=83.3 kg/百万円

売上100万円あたりの商品廃棄量

メイド・フォー・ユー導入期間

kg/売上100万円

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

メイド・フォー・ユーは注文を受けてから商品を作るシステムで、以前の作り置きシステムに比べ、完成品商品の廃棄量が大きく減少しました。

地域の仲間にサポートを

“私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある”。私たちのすべての活動は、マクドナルド創業者であるレイ・A・クロックのこの言葉が原点となっています。コミュニティの一員として子供たちの幸福な未来、そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考えながら、地域と共に成長し、子供たちの健全な成長を支える「食」「体」「心」を育む支援活動や地域貢献活動など、幅広い取り組みを積極的に行ってています。



教育支援

オリジナル教材「食育の時間+（プラス）」を通じた食育授業支援



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/food_education_support/

教材を使った授業・指導実施回数

のべ**8,650回**

受講児童・生徒数

のべ**269,633名**

※ 2007年1月～2021年12月末までの判明数累計

2021 Topics

※ 2021年12月末現在

チャリティ

ドナルド・マクドナルド・ハウス支援
店頭募金、募金付きクーポンによる募金

総額 約**9,325万円**



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/dmhcj/>

キッズスポーツ支援

高円宮賜杯
全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント



全国約**11,000チーム** /
支援児童約**44万人**



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/baseball/>

JFA 全日本U-12
サッカー選手権大会



全国約**8,200チーム** /
支援児童約**33万人**



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/soccer/>

地域貢献

安全笛贈呈数

約**830,000個**



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/whistle/>

医療従事者の皆さまへの支援

のべ**125,329セット**

新型コロナウイルスの影響により大変な状況下で医療現場の最前線で日々闘ついている皆さまへエールと感謝をお伝えするために、ご要望をいただいた自治体や協会・病院へマクドナルドで温かいお食事をお召し上がりいただけるよう、特別ご招待券の贈呈を昨年に引き続き実施しました。

献血活動への協力

地域の日本赤十字血液センターと協力し、一部店舗で献血バスによる献血活動を実施したり、献血に協力された方へ配布いただく「献血サンクスカード(ドリンクやマックフライポテト®の無料ご招待券)」を寄贈したりするなど、献血活動の促進に協力しました。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/report/>

Community Connection

2021 Topics

コーヒー豆かすのリサイクルたい肥贈呈式とSDGs特別授業を実施

2016年から兵庫県姫路市内の8店舗でコーヒー豆かすをたい肥として再資源化しています。2020年からは香川県の農家と協働し、このたい肥を使用してレタスを栽培し、収穫したレタスを商品としてお客様へ提供する循環型リサイクルに取り組んでいます。

そして2021年、子供たちがより未来を見据え、環境問題に対して「自分に何ができるのか」を考える機会につなげてほしいと願い、SDGs未来都市*に選定された姫路市の豊富小中学校で「コーヒー豆かすのリサイクルたい肥贈呈式」と「SDGs特別授業」を実施しました。

* 姫路市は「経済」「社会」「環境」の課題解決や新しい価値創造に向けて積極的に取り組む自治体として、内閣府より「SDGs未来都市」に2021年5月から選定されています。


<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/smilestory/003/>



ハッピーセット®のリニューアル

もっとファミリーに寄り添うブランドを目指して、ハッピーセットのリニューアルを行いました。

サイドメニューは、栄養バランスに配慮して2種類から4種類に拡充*1し、あ子様の成長や食事の機会にあわせて、より幅広い選択肢からお選びいただけるようにしました。また、おもちゃは、「遊び」や「体験」を通じて子供たちの健全な成長と発達をサポートする開発方針*2へ変更しました。

*1 新商品としておいしく栄養を摂っていただける「えだまめコーン」、腸まで届くビフィズス菌(BB-12)を使用した、ほんのり甘く爽やかな風味の「ヨーグルト」を追加、「サイドサラダ」を選択肢に追加

*2 文字、図形、数、論理的思考などだけではなく、身体能力や自然・科学への興味関心、想像力、創造力、表現力などを育むきっかけになることや、人や社会との関わり、日々の生活習慣に自立して取り組むサポートになることなどを意識した開発方針



<https://www.mcdonalds.co.jp/family/happyset/>

「みんなで！どう解く？」

2021年1月より、株式会社ボプラ社が発行する『答えのない道徳の問題 どう解く?』と協力して、子供たちの自由な発想や思考力を育むことをサポートする「みんなで！どう解く？」プロジェクトを開始しました。特設サイトでは小学校の授業で活用できるオリジナル教材やオリジナル自由研究キットなど様々なコンテンツを公開し、子供たちが楽しみながら取り組み、成長できる機会の提供に努めています。「みんなで！どう解く？」の教材は、2021年12月時点全国200校以上もの小学校で授業に取り入れられました。




<https://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2021/0126a/>

Community Connection

地域社会の一員として取り組んでいる
様々な社会貢献活動をご紹介します。



ドナルド・マクドナルド・ハウス支援

マクドナルドは共に助け合う社会を目指したチャリティ文化の醸成と「ドナルド・マクドナルド・ハウス」の支援などを通じて“病気の子供とその家族”を笑顔にする活動に取り組んでいます。DMHは、自宅から遠く離れた病院に入院する子供とご家族のための“第二の我が家”をコンセプトに病院のすぐそばに建てられた滞在施設です。2021年12月時点で全国に11カ所あり、国内1号目となる「せたがやハウス」は2021年に開設20周年を迎えました。病気と闘う子供とその家族の笑顔のために、日本マクドナルドはハウスを運営するドナルド・マクドナルド・ハウス財団を設立当初から継続的に支援しており、全国すべての店舗に募金箱を設置しています。また、様々な活動を通じて、より多くの方たちが気軽にチャリティに参加いただけるよう取り組んでいます。お寄せいただいた募金や寄付は、すべて「ドナルド・マクドナルド・ハウス財団」へ寄付させていただき、ハウスの運営や建設などに使われています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/dmhcj/>



ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパンHP
<https://www.dmhcj.or.jp/>

マックハッピーデーと DMH支援チャリティラン＆ウォークが初の同日開催

各国のマクドナルドがその国の子供たちの幸せを願い、長年展開しているグローバルチャリティ活動「マックハッピーデー」を2021年11月21日(日)に実施しました。日本マクドナルドではこの日のハッピーセット®お買い上げ1つにつき、50円をハウスを運営する「ドナルド・マクドナルド・ハウス財団」へ寄付させていただいています。2021年は「DMH支援チャリティラン＆ウォーク」イベントも同日開催され、店舗だけでなく、日本各地で多くの皆さまがチャリティに参加され、笑顔の輪が広がる日となりました。

キッズスポーツ支援

これからの将来を担う子供たちの心と体の健全な成長を願って、
スポーツを頑張る子供たちを支援しています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/baseball/>

学童野球

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント



“小学生の甲子園”とも称される歴史ある大会を、マクドナルドは1986年からサポートしています。2021年大会は、新潟県で2年ぶりに開催されました。

無観客での開催となりましたが、客席に巨大応援メッセージを設置したり、元メジャーリーガー・上原浩治選手に登場いただきたりと、選手児童たちを応援するための取り組みを行いました。初の大会公式テーマソングとなった『ダイヤモンド』は、スポーツで夢を追いかける人たちへの応援メッセージや、熱いエピソードを募集し制作したものです。ほかにも、2021年も支援活動の一環として、小冊子『野球プレイヤーブック2021』を大会登録チームに所属する選手44万人に配布しました。

小学生のサッカー

JFA 全日本U-12サッカー選手権大会



12歳以下の選手で構成される全国のチームが出場を目指し、数多くのJリーガーや日本代表選手を輩出している日本最大規模の小学生サッカー大会を、2011年からサポートしています。

また2021年も支援活動の一環として、小冊子『サッカープレイヤーブック2021』を大会登録チームに所属する選手33万人に配布しました。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/soccer/>



Community Connection



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/>



教育支援

子供たちの笑顔をより豊かにするために、様々な学びの機会を提供しています。

食育支援

子供たちが楽しく食べる喜びを知り、食に関する正しい知識と習慣を身に付けてもらいたいという願いから食育支援を行っています。

2005年に小学生向けオリジナルデジタル教材「食育の時間」を開発して以来、「食」を提供する企業の責務として継続して教育現場の食育授業を支援しています。「食育の時間+(プラス)」教材(2019年にフルリニューアル)は、正しい手洗いや衛生管理、SDGs教育にもなる食品ロスなどを含む、食にまつわる7つの基本が学べる内容で、ウェブサイトで公開しています。

また教材提供だけにとどまらず、「食育授業支援事務局」を設置し、教材コンテンツを収録したDVD付き指導案の配布や教具の貸し出しなど、先生方の授業づくりのサポートも無償で実施しています。

家庭でも食育を学ぶ機会をご提供するため、夏休み特設サイトを期間限定で開設し、「食育の時間+」教材を活用した自由研究ができるオリジナルフォーマットの提供も行っています。2021年は親子向けのオンラインイベントを初開催し、夏休みの子供たちへ向けたさらなるサポートを実施しました。



ハロードナルド!

未就学児と小学校低学年を対象に、子供たちの日常生活に必要な「食育」「交通」「防犯」「環境」などのルールやマナーを伝える「教育支援プログラム」を全国で実施しています。新型コロナウイルスの影響による大勢が集まつての実施が難しい状況に対応して、2020年以降は子供たちに向けたドナルド・マクドナルド出演動画を制作し、公式ウェブサイトや公式YouTubeで公開しています。

キャリア教育支援

マクドナルドの人を育てるノウハウや業態を活かし、幼児から小学校、中学校、高等学校と子供の成長段階に応じて、食育や店舗実習といった様々な教育支援プログラムを用意しています。

地域貢献活動

「あなたの街と共にマクドナルド」として、安全で安心な活気のある街づくりを目指した地域貢献活動を行っています。

子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力しており、各都道府県が発行している「子育て支援パスポート」を全国のマクドナルドでご提示いただくと「チーズバーガーのハッピーセット®」を特別価格でお召し上がりいただけます。

※朝マックの時間帯(10:30まで)は「チキンマックナゲット®のハッピーセット®」を特別価格でお提供。

美化活動

全国各地の店舗で継続した地域美化の活動を実施しています。また、行政や市民団体主催の清掃活動にも積極的に参加し、地域の皆さんと共に、美しい街づくりに努めています。

※2021年に「クリーンパトロール」から「美化活動」へと名称変更しました。

●デリバリーバイクでの見守り

地域の見守り活動を強化するために、2021年7月から兵庫県内のマクドナルド全143店舗で、デリバリーバイクが「こども110番のバイク」として活動を開始しました。



安全安心を守る取り組み

●こども110番の家

地域の警察本部等と協力して、地域の子供たちの安全を守るために、子供が危険に遭遇した際や困ったことが起きた際などに、マクドナルド店舗に駆け込んで助けを求めることができる「こども110番の家」の活動を推進しています。2021年12月末時点、2,260店舗で掲出しています。



●安全講習会 (デリバリーバイク・自転車)

地域の警察署と連携して交通安全強化に取り組んでいます。商品をお届けするマックデリバリーのスタッフが交通安全講習会に参加し、運転ルールや事故の発生事例などの交通安全に必要な知識を学んでいます。

働きがいをすべての人に

“マクドナルドは、世界中どの街でも、ベストな雇用主となる”。この全世界のマクドナルドが共通して持っている目標を達成するために、私たちはすべての従業員に対して「マクドナルドは従業員の皆さんとその成長および貢献を、価値あるものとして大切にします」と約束しています。

年間のべ約14億人ものお客様が訪れ、いつの時代もお客様の多種多様なニーズに応えるマクドナルドだからこそ、立場の異なる社員やクルー同士が互いに成長を助け、高め合う風土をこれからも育むとともに、マクドナルドに関わる人すべての笑顔を願つて、誰もが成長し活躍できるための取り組みを行っていきます。

2021年 雇用状況

※ 2021年12月末現在

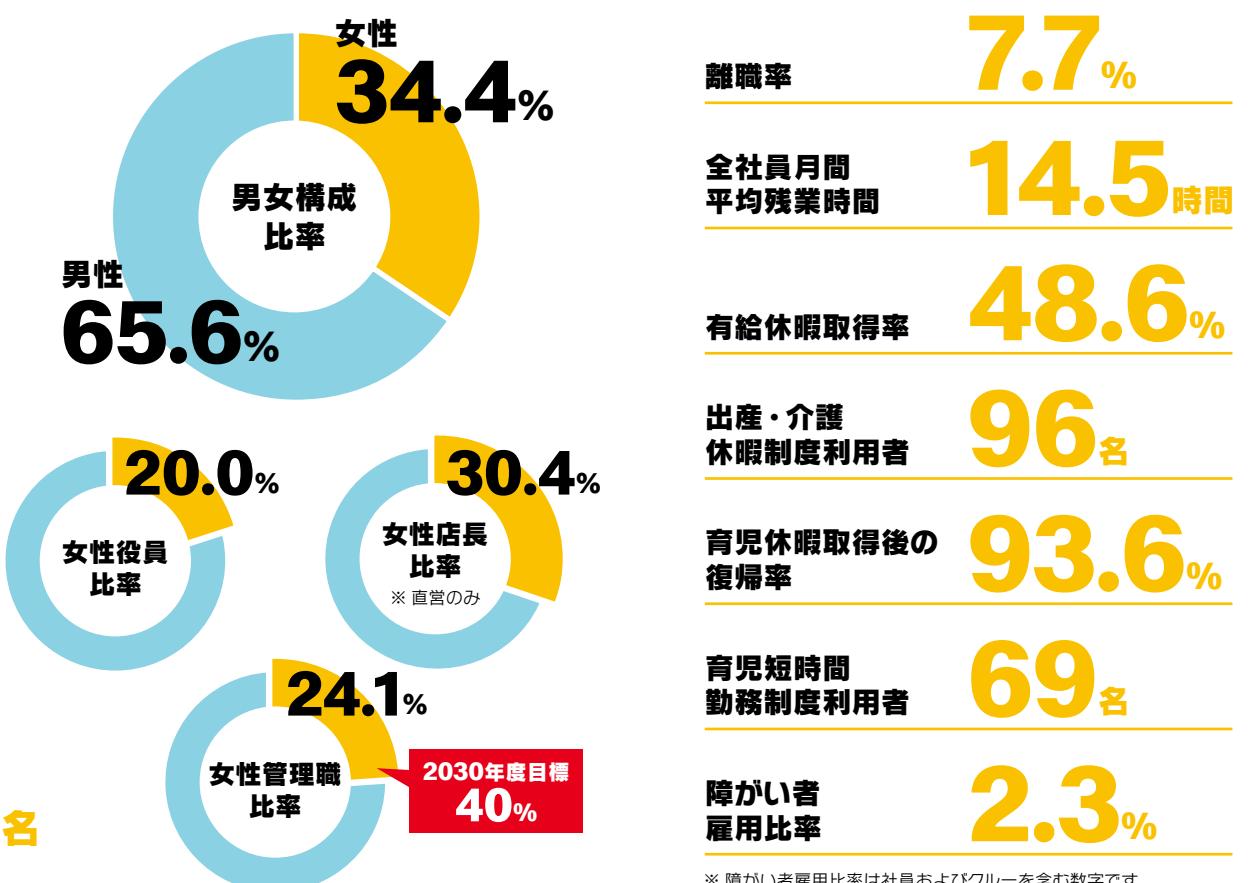
※ 全国クルー人数以外は、日本マクドナルドの数字です。

全社員数（正社員）

2,349名

全国クルー人数

約190,000名



人材の考え方と取り組み

「マクドナルドはハンバーガービジネスではない、“ピープルビジネス”だ」。マクドナルドの創業者レイ・A・クロックの言葉に象徴されるように、企業の成長を支えるのは「人」であり、お客様に最高の店舗体験を提供し続けるためには、マクドナルドで働く一人ひとりの成長や貢献が不可欠です。

日々のトレーニングや専門教育機関で成長の機会を提供し、誰もが活躍できる働き方の推進や職場環境の実現を目指すとともに、リーダーシップを育て、功績に報いることで、働くすべての人を尊重し、一人ひとりの未来や、さらには社会全体がより良いものになる活動をこれからも続けていきます。



[https://www.mcdonalds.co.jp/
sustainability/people/](https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/)



多様な人材の活躍推進

常にお客様のご要望へ応え続けるためには、私たち自身が多様性に富んだチームでなければなりません。今後も性別や年齢、国籍を問わず、幅広く雇用機会を提供するとともに、個々のエンゲージメントをさらに高め、やりがいを持って働く環境づくりに努めます。



ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

「多様性を積極的に受け入れる」という姿勢を雇用と人材の基本としています。誰もが自らの強みを発揮し、また成長できるための取り組みを推進するとともに、異なる個々の能力や特性、求めるニーズに対する適切なサポートにも注力していきます。

若い世代の育成・就労支援

職場での教育と訓練の機会を提供するだけではなく、様々な人が働く職場環境で育まれるチームプレーを通じた、若い世代の育成・就労を支援しています。

女性の活躍

ビジネスの継続的な成長を達成する上での喫緊の課題として、特にジェンダー（性別）にフォーカスした活動を展開しています。例えば、出産や育児といったライフイベントの変化によりキャリアアップを諦めることなく、継続的に働く職場環境や制度の充実を図っています。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/womens_success/

障がい者の雇用

障がいのあるなしに関係なく、すべての従業員が仲間でありチームとしてお互いに支え合うことで、共に働く喜びを分かち合いながら活躍できる場を提供しています。



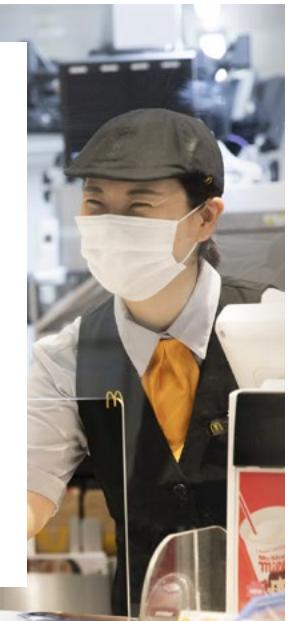
<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/challenge/>

多様な働き方の推進

働くすべての人の笑顔を願つて、様々な働き方をサポートする制度の充実に注力しています。社会にポジティブな影響を与える続けるマクドナルドであるために、これからも働く人に寄り添った取り組みを推進します。

地域社員制度導入（直営店舗のみ）

2021年から、柔軟な働き方が可能な新制度として、クルーの正社員登用を推進する地域社員制度を導入しました。これにより、ご自身のライフスタイルに合わせた、通勤可能な地域でのキャリアアップを目指すことができるようになりました。



キャリア開発の推進

優れたリーダーシップを育み、一人ひとりの成長や次世代を担う人材の育成のために、マクドナルドでは職場でのチャレンジや成長のサポートを重要視しています。決められたキャリアパスではなく、自ら選び行動できることで、働くすべての人にやりがいや充実感のある豊かな生活の提供を目指しています。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/career_enhancement/

評価育成制度

「人の成長が企業の成長を可能にする」という考え方から、一人ひとりがモチベーション高く仕事に取り組み、パフォーマンスを発揮し、成長するための、定期的な対話と頻繁なフィードバックからなる制度です。



教育機関（ハンバーガー大学）

働くすべての人々が、学び、成長し続ける企業であるために、ハンバーガー大学があります。最新の教育理論および手法を用いて、人材育成と、そのシステム開発に取り組む専門教育機関です。ハンバーガー大学で身に付けるスキルは、一人ひとりの成長を加速し可能性を広げてくれます。

マクドナルドとSDGs

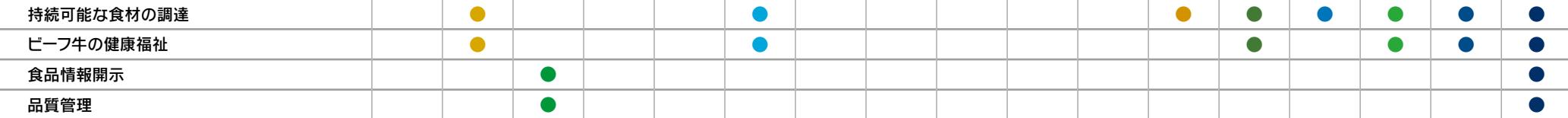


<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/sdgs/>

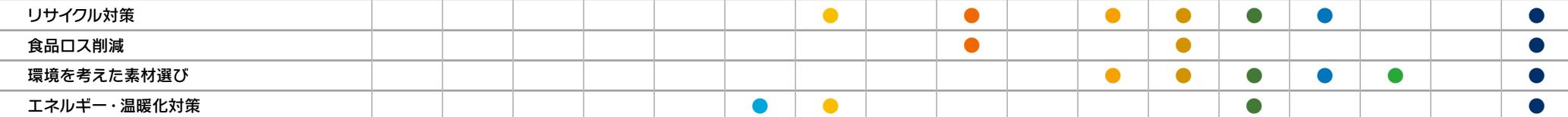
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



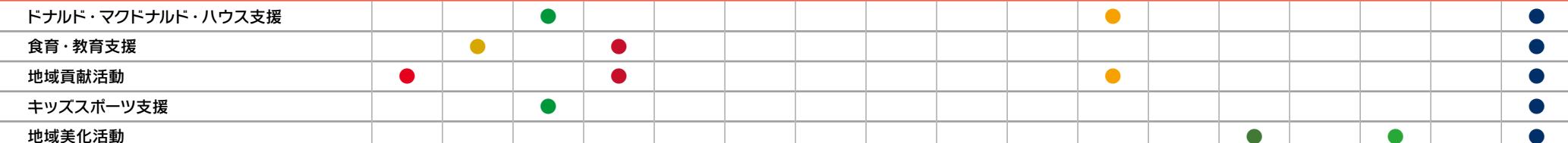
安心でおいしいお食事を



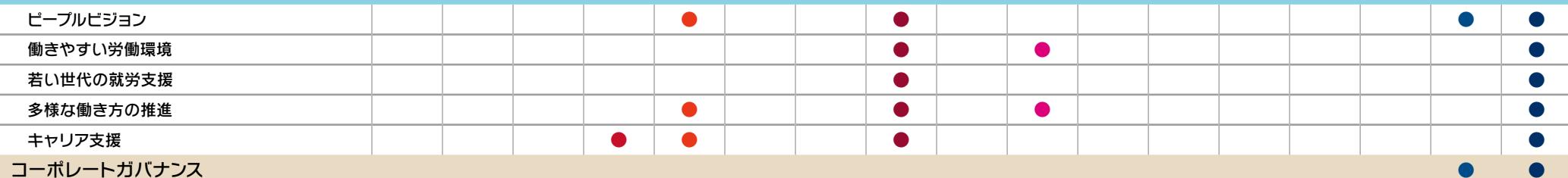
地球環境のために



地域の仲間にサポートを



働きがいをすべての人に



第三者意見

私たちは何のために存在するのか。個人・企業・地域社会関係なく、これからの時代、この地球上に暮らす誰もがこの問い合わせに対して向き合い、境界線のない社会の実現に向けて対話を重ね続ける必要があります。

新たに策定されたパーパス「おいしさと笑顔を地域の皆さんに」では、日本マクドナルドらしい、すべてのステークホルダーと一緒に歩んできたこれまでの軌跡と、地域の皆さんのために歩んでいきたいこれからの中未来に対する想いが明文化されています。

パーパスを実現するために注力している4つの領域——「安心でおいしいお食事を」「地球環境のために」「地域の仲間にサポートを」「働きがいをすべての人に」では、公正かつ透明性のある企業経営の姿勢が見られます。

新型コロナウイルスに対応しながら、私たちの健康にとって重要である「安心安全」な食を、今の時代に合った方法で提供し続けています。2020年度より一部店舗で導入開始した「デジタルフードセーフティ」の全店舗展開がその一例です。地球上にあるすべてのものは大切な資源だからこそ、「環境」を考える必要があります。前年と比べてプラスチック廃棄物量が増えていますが、お客様提供用パッケージにおいてFSC®認証の紙使用率100%達成の成功事例と同様に、紙製ストロー・木製カトラリーの導入を通じたワンウェイプラスチックの大幅な削減を望みます。子供は未来の宝であり、「地域」に関しては、幅広い業界とのパートナーシップを通じた子供たちに向けた教育活動が際立っています。働く人々の笑顔があつて、受け取る側も笑顔になります。多様な人材、働き方、そしてキャリア開発の推進を通じて、SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会へのコミットを感じます。

パーパスを起点としたESG(環境・社会・ガバナンス)経営のリーディングカンパニーとして、あらゆる「笑顔と笑顔」を繋ぐSmileの架け橋となることを期待しています。



WORLD ROAD株式会社 共同代表
青年版ダボス会議 One Young World 日本代表
ひらばやし いぶん
平原 依文

会社概要

日本マクドナルド株式会社

所 在 地 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アーランドタワー
設 立 1971年(昭和46年)5月1日
資 本 金 1億円
事 業 内 容 ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店 舗 数 2,942店
売 上 高 6,520億円(直営店・フランチャイズ店合計売上)
社 員 数 2,349名(契約社員を除く)
アルバイト従業員／約19万名(直営店・フランチャイズ店合計)(2021年12月31日現在)

企業情報

経営理念、会社概要、沿革・歴史等は日本マクドナルドホールディングス株式会社ホームページの企業情報／コーポレート・ガバナンスをご確認ください。



企業情報
<https://www.mcd-holdings.co.jp/company/>



コーポレート・ガバナンス
<https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/governance/>

企業理念

レストラン・ビジネスの考え方

おいしさと笑顔を地域の皆さんに。お客様だけではなく、従業員、そして地域の皆さんに笑顔になつていただくことがマクドナルドの存在意義です。

QSC&Vを基盤に、従業員一人ひとりがマクドナルドの価値観を理解、共感、体現することで、「おいしさとFeel-Goodなモーメントを、いつでもどこでもすべての人に。」お届けします。



<https://www.mcdonalds.co.jp/company/outline/rinen/>

編集方針

本レポートでは、日本マクドナルドのサステナビリティに対する考え方や取り組みについての報告をしています。

マクドナルドのサステナビリティおよびそれに関連する取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さんと情報を共有し、持続可能な社会につながればと考えております。

報告の対象範囲ほか

報告対象組織 日本マクドナルド株式会社(一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む)

報告対象期間 2021年1月1日～2021年12月31日

報告対象分野 社会的責任関連全般(環境・社会)

作成部・連絡先 コミュニケーション&CR本部

〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アーランドタワー

